

困難は生きがい，苦しみは励みに変わる

近年はなかなか行われなくなりました，教頭先生が勤務してきた学校では2月上旬に2年生は「立志式」を行っていました。

14歳という時期は，心身ともに成長が著しく，子供から大人へ成長していく大事な時期だといわれています。昔は12歳から16歳にかけて「元服」という儀式が行われ，一人前として認められました。特に，昔，武士の子供は14～15歳で元服したそうです。

15歳という年齢は，「志学（15歳のこと）」に由来するものではないかとされています。志学とは，論語の「吾十有五にして學に志す」（孔子先生が言うには，私は15歳の時に，学問で身を立てていこうと決心した…）というものです。

14歳に達した時には，将来に向けて「志」を「立」て，次代の社会を担う者として誇りと責任を自覚し，希望に満ちて生きることのできる健全な心身をつくろうと決意を新たにしなければなりません。そうすることで，徳育の重要な一助にしようと願うに至ります。



中学生は体格の向上に精神の成長が追いつかず，情緒が不安定になりがちで，エネルギーを持て余す年頃です。この年頃の君たちは，人間力の基本である志の大切さを学んでほしいです。

（立志に寄せてある資料より）

君は，「生きている」か，「生かされている」か。この区別がつかないものほど，自分は自分の力で生きていると錯覚し，えらそうな口をきく。

「生きている」というのは，自分の進むべき道を，自分の力で，一步一步，目標に向けて歩くということである。でこぼこの道もあるだろう。急な坂道もあるだろう。石ころにつまずいてひざをすりむくこともあるだろう。そういった，困難や苦しみがあっても，目標をしっかりと見つめて歩くことが「生きている」ということなのだ。

困難なことを苦しみに落としてはならない
 苦しみは迷いを越し
 苦しみは二倍，三倍に倍加する
 苦しみの目標を知れ
 何のために苦しい思いをするのか
 その目標が分かったら
 困難は生きがいとなり
 苦しみは励みとなる

楽なことばかりを求めて，目標もなく歩けば，進むべき道をそれて，道に迷うことになる。本当の自然なら，そこには死が待っている。人の道（人生）ならば命を落とすことはないだろう。しかし，それは単に「生かされている」のであって，生きてはいないのである。

「親父の小言」

相馬藩大聖寺暁仙増上為一家繁栄胎之	火は粗末にするな 風吹きに遠出するな 年寄りはいたわれ 子の云うことは八九きくな 初心は忘れるな 借りては使うな 不吉は云うべからず 難渋な人にほどこそ 義理は欠かすな 大酒は飲むな 判事はきつく断れ 貧乏は苦にするな 水は絶やさぬようにしろ 怪我と災は恥と思へ 小商ものは値切るな 産前産後は大切にしろ 万事に気を配れ 病気は仰山にしろ 家内は笑うて為せ	朝はきげんをよくしろ 人には腹をたてるな 恩は遠くからかへせ 人には馬鹿にされていろ 年忌法事をしろ 家業には精を出せ 働いて儲けて使へ 人には貸してやれ 女房は早くもらえ ばくちは決して打つな 大めしは喰うな 自らに過信するな 火事は覚悟しておけ 戸締りに気をつけろ 拾は届け身につけるな 何事も身分相応にしろ 泣きごとは云うな 神仏はよく拝ませ 人の苦勞は助けてやれ

「親父の小言」です。一生懸命考えながら読んでほしいです。意味が分からない言葉は、調べてほしいです。真新しい言葉はないのに、何故か気持ちが安らぐ…。人間としての大切なことが詰まっています。